

# 生活リズムのたてなおし

小川 伸 一

## 一、現状からの出発

(1)、長期休業後の教務室でなげきの声が、聞こえてくる。

「顔も洗ってこないで、朝から、ボウツトしている。」

「大きなあくびを連発する。どうも、授業に集中しない。」

「忘れ物がひどくて、勉強にならない。」

「一学期よりはやりやすいけど、呼ばれても、返事をするのも忘れてる。」

(2)数年前のことである。新聞の投書欄で読んだ。「学校は、家庭の在り様まで

管理するのか。個人差のある排便まで、一律に点検している」こんな指摘であつと思ふ。

もっともな話だ。理想からいえば、学校が生活点検など、家庭のしつけにかかわることまで、口出しするのは妥当ではない。しかも、家庭の状態は、以前にも増して深刻になっていて、一律に、朝はこう、夜はこうと点検できるような状況ではない。共稼ぎはあたりまえ、職場での長時間労働、単身赴任等々、職場の労働の実態が、家庭にまで、影を落ととして

受験生をかかえる家庭もある。部活で帰宅がおそい。朝の練習もある。塾だ習い事だと子供たちの生活も多忙である。ある地域では、朝・ソロといって、早朝五時からの珠算塾もあるという。また、ある地域では、早朝五時からの野球練習だつてあるのだ（夏休み中ではない）。こんな状況なのに、何が生活点検だ、何が生活リズムだ。

(3)生活リズムどころでない家庭の状況、そして、教務室のなげき。両方とも現在の状況なのである。

子育て（教育）の問題について、学校と家庭で責任のなすり合いをすることを好まない。現状が問題なら、気づいた人から、可能などころから改善の手を加えていきたいものである。

## 二、学校と家庭が協力し合つて

(1)このところ、低学年を担任することが多い。入学式後の学級指導の時間に必ず、「五本の指のお約束」というのを入

れることにしている。大勢の母親たちに囲まれた子供たちと五つの約束をするのである。一番目の約束は、親指の約束、二番目の約束は、人指し指の約束……。大洋紙にひろげた手の絵をかいておき、そこに、何をしているかわかる絵を指のところにのべていく。

①あさ、自分一人で起きる。

②自分でできることは、自分でする(着がえ、洗面、歯みがきなど)。

③あさはんをしっかり食べてくる。

④友達と一緒に元気に学校にくる。

⑤夜は、八時にねる。

指導の効果は、抜群である。子供たちは、翌日から努力を始める。音を上げるのは、親の方である。約束が、守れるかどうかのポイントは、⑤夜、八時に寝ることができかどうかである。すぐに、電話がくる。

「わが家は、商いをしているので、店を閉めて、食事をして、風呂に入れて、夜九時に寝かせるのが、やっとです。子供は、先生と約束したのにねむれないと言

って怒ります」という具合である。そんな時は、家庭の実情に合わせて、親子で相談して時刻を決めて下さるようにお願いしている。

これらの約束が、守られているかどうか、時々、子供たちに問いかけ、自立を励ましていくようにしている。また、学級・学年のPTA懇談会の話題に取り上げ、それぞれの家庭の様子を話し合うのも楽しいものである。

(2)さて、夏休み明けの二学期。子供たちに再度、「五本の指のお約束」を想起させ、実行を呼びかけていきたい。また、学年、学級通信で家庭への呼びかけもしていきたい。

「夏休み、どの子も楽しく過ごせたようです。海水浴へ行って、西瓜割をしたこと、五頭山でバーベキューをしたこと、親戚の家へ泊まりに行ったことなど話してくれました。さて、二学期、夏休みの疲れがとれず調子の狂い易い時期です。一日も早く、夏休みボケを解消し、規律

ある学校生活を取り戻すために、生活リズムのたてなおしをみんなで行っていきましょう。二年生の子供、幼年期から少年期へ、充実した学校生活を。のびのびと自分自身の力を発揮できる生活を準備しなくてはならないと思っています……」

### 三、自分との約束を守る

家庭には、それぞれ事情がある。それぞれの家庭に合った生活リズムを確立していきたいものである。

今年六月十七日、平澤興先生が他界された。先生は、子供たちへの講話の中でいつも強調していた。「良い子になって下さい。良い子になるのは簡単です。それには、自分との約束を守ることです。こうしよう、こうならうと決めたら、その自分自身との約束を守ることです。」人も知る努力家であった先生の言葉だけに説得力があった。

(西蒲原郡西川町 曾根小学校)